

# りんりんふえす2013 記念冊子

**りんりんふえす**

**Sing with your neighbors**  
THE BIG ISSUE Support Live vol.4

2013年10月13日(日) 東京 外苑前 **梅窓院 祖師堂** そしどう 開場 14:00 前売 2,000円  
開演 14:30 当日 2,500円  
(BIG ISSUE 300円)

# りんりんふえす開催に寄せて

寺尾 紗穂

今回で4回目を迎えるビッグイシューサポートライブだが、「りんりんふえす」というのはそもそも、これまでに1回しか開かれていない。第3回目からの愛称だ。第1回目は人を介して会場の「H寺」側とやりとりをしていたこと、「H寺」側の対応への不信感もあって、終わった時には、来年以降このイベントをどうやって存続させていこうか、という不安に包まれていた。

2011年5月、そんな不安を抱えたまま、私は一本のPVを作って公開した。そしてこの「アジアの汗」のPV撮影の過程で、私はNPO法人自立生活サポートセンター・もやい(以下、「もやい」)の稲葉剛さんという素晴らしい協力者と出会うことができた。「アジアの汗」は、私が大学時代山谷の夏祭りに行った時に会った坂本さんという、絵描きで元土方のおじさんとの出会いにインスピレーションを得て、出来上がった歌だ。坂本さんがたまたま私が通っていた東京都立大学の八王子キャンパスを建てた、ということも不思議な縁を感じた。

坂本さんは出会ってから5年後に突然死し、私は否が応にも、この短くも印象的な出会いの意味を考えさせられた。だから、「アジアの汗」のPVは坂本さんを偲ぶことのできる、ドキュメンタリータッチのものにしたい、と想っていた。そして、出来ることなら絵描きだった彼が生前私に見せてくれた沢山の絵をPVに撮影したいと思った。つてをたどって遺された彼の絵の所在を追っていくと、それは「もやい」に保管されている、という事がわかった。

松江哲明監督にこの話を投げかけたところ、私が作りたいものを察してくれた監督は当日、自身のハンディカメラをさっと私に手渡してくれて、「寺尾さんも撮ってください」と言ってくれた。「アジアの汗」のレコーディングをやった市ヶ谷の、よく路上のおじさんたちが小さな宴会をしている地下通路を撮り、その後「もやい」のある飯田橋へ移動した。

「もやい」の稲葉さんは生活保護の受給を考えている人の相談にのったり、保証人を引き受けたりと日々忙しい仕事の傍ら時間を割いて、保管してある絵をすべて見せてくれた。坂本さんは、生前もやいにもよく顔をだしており、稲葉さんは葬儀にも参列したとのことだった。ひと通り、画像を撮影させてもらったあと、私は思い切って稲葉さんに、ビッグイシューを広める音楽イベントを考えていること、「H寺」で前年に行ったイベントのこと、場所を変えて続けていきたいことなどを相談してみた。稲葉さんは、この大して知名度もなさそうな一人の歌手の提案にその場で興味を示してくれ、ビッグイシュー、それから浄土宗若手僧侶から成る「ひとさじの会」の方々へと繋げてくださったのだった。

こうして思いがけず組まれたこのタッグは、とても強力で、それぞれが経験と人脈と熱意を持つ人々で溢れていた。こうした協力体制のもと、「ひとさじの会」の浄土宗つながりで使わせてもらった「梅窓院」での第一回目、つまり第二回目のサポートライブを無事に終えることができた時、私は坂本さんがあの世からさり気なく導いてくれたかのような、この展開と人のつながりなどに感謝でいっぱいだった。そしてもう一つ、浄土宗との不思議な縁についても感じざるを得なかった。

坂本さんと出会う1,2年前、やはり大学時代に私はサイパン及び南洋群島と呼ばれた地域に興味を持った。そこはかつて日本の統治下にあり、日本語教育も行われていたのだった。卒論や修論に絡むわけでもなかったが、私は大学～大学院時代に数回サイパンに取材に行った。飛び込みで地元の老人ホームに行けば、日本語をしゃべれるおじいさんおばあさんはまだまだ残っていたのだ。そうして、彼らの記憶や、記憶の底に眠っていた日本の歌などを聞かせてもらいながら、戦前サイパンへのイメージを自分なりに膨らませていった。

その中で私は青柳貫孝という一人の浄土宗住職に興味を持った。彼はインドや東南アジアで仏道を説き、かのタゴールに茶道を教えたという逸話の持ち主で、その後サイパンに南洋寺という寺をつくり住職となると同時に、サイパン女学校の前身となるサイパン家政女学校の創設者でもあった。島民にも茶道華道を教える場を設けたり、島民2名を東京の家にはきとって留学させてもいる。

戦後は八丈島に渡って香料の生産活動を指導し、晩年は茶道を教えたり易者をしながらつつましく暮らしている。この異色の僧侶の恩師が、渡辺海旭という浄土宗の僧侶であった。



渡辺は浄土宗の派遣するドイツへの留学生となって見聞を広め、帰国後の大正日本で初めて社会慈善事業を展開したエライお坊さんだった。宿泊所、食堂、職業紹介、質屋、保育所、障害者支援、住宅改築、仕事づくり、朝鮮人学校の設立など、渡辺がリードした事業は実に多岐に渡った。彼は、金持ちばかりが文明の恩恵を受ける世の中で、貧困層を支援する事業は、宗教者が動かなければできないという使命感を持っていた。

第一回目のイベント開催の「H寺」での苦い経験をした後、たまたま「真夜中」という雑誌でサイパンについての連載を持っていた関係で、この渡辺についても調べ始めた私は、大変な勇気をもらう思いだった。日本のお寺にはもう期待できないのかな、と悲観していたところに、大正時代にこのような動き方をした僧侶がいたことがとても嬉しかった。そして、このことに感銘を受けてしばらくして、私は稲葉さんから渡辺の意志をひきつぐ浄土宗僧侶たちの「ひとさじの会」を紹介されたのだ。普段からおにぎりを手渡す野宿者支援に取り組む彼らは東日本大震災の被災地にも足繁く通ってボランティア活動をしたり、障がい者の授産施設と連携したりと社会とのゆるやかな繋がりの中で、気負わずに仏の道を実践している。

思いがつながる、ということがある。思いがみちびく不思議な縁、というものがある。大きな会場で、音楽も座談会も食べ物も！と欲張ったフェスは、ひとりでは到底実現できないものだ。言い出しっぺとして、一つの思いが形になっていく経験はとても大きなものだった。書いてしまうとありきたりだが、人とのつながり、そこから生まれるパワーの大きさをひたすら感じた。

人は一人で生きてはいない。人は人と生きている。恋人が、友人が、先生が、お兄ちゃんが、妹が、お母さんが、おじいちゃんが、叔母さんが、そういえば買っていたあの雑誌。面白いって言ってたあの雑誌。そんなところから始まって、この雑誌が広まっていく可能性はまだまだあちこちに転がっていると思う。一冊ビッグイシューを買うこと、それについて誰かにちょこっと話すこと、読み終わったら読んだことのない知人にあげること…。今日集って下さった皆さんが、そんなささやかなサポーターとなり、なり続けてくださること。この社会に、失敗して転んでもすぐつかまれる手すりや、上っていけるはしごのようなシステムが増えていくこと。ビッグイシューがその先駆けとして、これからも広がり続けることを願いつつ。

ご来場、ありがとうございます。

2013年10月 寺尾紗穂

# りんりんふえす2013 出演アーティスト



七尾旅人



ソケリッサ



寺尾紗穂



石橋 幸



加川 良



NRQ

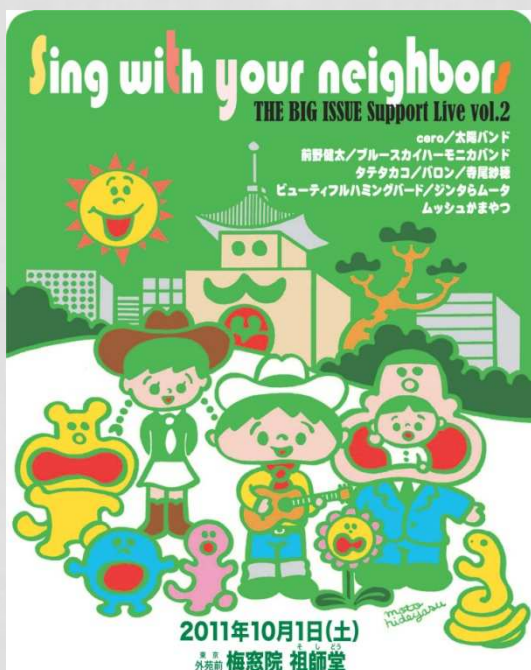


# これまでの軌跡①

## SING WITH YOUR NEIGHBORS

THE BIG ISSUE SUPPORT LIVE VOL.2

2011年10月1日(土)／梅窓院／来場者 約250人



フライヤーデザイン／本秀康

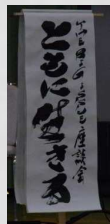
### ●ツイッターでの反応

今日の梅窓院でのビックイシューサポートのライブ、面子がすごい良いのは勿論、ビックイシューの新しい号が付いて、おにぎりも配っていて2000円はすごいお得感高いイベントだ!!

ビックイシューイベントで今まで知らなかったホームレスの人達の事情が知れて、知らなかったバンドも知れて、よかったな。

浅草の路上バンド「ブルースカイハーモニカバンド」観れてよかった。ミュージシャンやバンドマンは皆、一度はあのおじさんたちを体験するべきだと思う。音楽は気持ちでやるんだって教えてくれる。

### ●当日の写真



# これまでの軌跡②

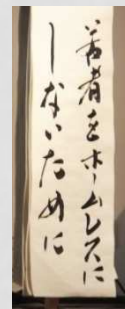
## りんりんふえす (改称)

### SING WITH YOUR NEIGHBORS

### THE BIG ISSUE SUPPORT LIVE VOL.3

2012年10月6日(土) / 梅窓院 / 来場者 約200人

● 当日の写真



### ● ツイッターでの反応

寺尾さんのピアノと歌に合わせてホームレスの方が自由な表現で踊る場面は美しく潤みました。ビッグイシュー販売員で馴染のおじさんがいるので、次はこのフェスの事話してみようと思います。

りんりんふえすの座談会、若年層ホームレスのはなし。知らなかったことたくさん。屋根があれば、部屋があればいいんじゃないんだな。ルーフレスでもハウスレスでもなくて、ホームレス。

駅から降りて、りんりんふえすの会場まで行く道すがら、案内看板を持っているビッグイシューの販売さんがいた。話しかけて、二言三言会話をしたが、言えなかった言葉を呟きます。「ありがとう！迷わず来れました」

りんりんふえす  
Sing with your neighbors  
THE BIG ISSUE Support Live vol.3

2012年10月6日(土) 外苑前 梅窓院 祖師堂  
開場 14:00 開演 14:30 2,000円 (税込・入場自由)

友部正人/片想い/寺尾紗穂/木蓮/ソケリッサ/Broom Duster KAN/なざら健吉

フライヤーデザイン / 本秀康





# 有限会社 ビッグイシュー日本

ビッグイシューはホームレスの人々にモノやおカネではなく「チャンス」を提供する事業です。

『ビッグイシュー日本版』という質の高い雑誌をつくり、ホームレス状態にある人の独占販売とすることで、「ホームレスの人しかできない仕事」をつくっています。

1991年にロンドンで生まれ、日本では2003年9月に創刊しました。しくみは、『ビッグイシュー日本版』をホームレスである販売者が街頭で販売します。1冊300円の雑誌を売ると半分以上の160円が彼らの収入となります。最初10冊は無料で提供し、その売り上げ（3,000円）を元手に、1冊140円で仕入れていただきます。

社会問題の当事者になった人がその問題解決の担い手になって初めて、その社会問題は解決されると私たちは考えています。販売者となった人たちは私たちのビジネスパートナー。このような考えで、私たちは日本を居心地のいい、チャンス「豊かな」社会に、そして安心して生きられる社会に変えたいと思っています。

街角でビッグイシュー販売者を見かけたら、ぜひお声をかけてみてください。



【URL】[www.bigissue.jp](http://www.bigissue.jp)

【本社】〒530-0003 大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階【TEL】06-6344-2260

【東京事務所】〒162-0065 新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室【TEL】03-6802-6078





# 認定NPO法人 ビッグイシュー基金

『ビッグイシュー基金』とは、有限会社ビッグイシュー日本を母体に設立された非営利団体です。ビッグイシュー日本版創刊から約4年後の2007年に設立されました。ビッグイシュー日本の活動を通して、ホームレスの人々の自立には、就業を含めた総合的なサポートが必要であると考えたからです。

2008年4月にNPO法人の認証を、2011年には国税局から認定を受けました。これによりNPOビッグイシュー基金への寄付は税控除が受けられるようになりました。貧困問題という大きな氷山の頂点ともいえるホームレス問題の解決から取り組むことで、ビッグイシュー基金は、「失敗しても何度でも再チャレンジできる」「誰にも居場所と出番がある」社会の形成を目標として活動しています。

生活自立、就業、文化・スポーツ活動などの多面的なサポート事業を行うほか、生きやすい社会をととのえるため、ホームレス問題解決のネットワークづくりや政策提言活動や市民が活動に参加する機会の提供などを行っています。

ホームレス問題は、今、あなたのすぐ隣で起きている出来事です。そして、ホームレスという人種はどこにもいません。ホームレス状態におかれている人がいるだけなのです。

まず、路上で暮らす「人生をあきらめない」人たちの声に、耳を傾けてみてください。そして、生きやすい社会をつくるために、一人ひとりができることを一緒に考えてみませんか？



【URL】[www.bigissue.or.jp](http://www.bigissue.or.jp)

【事務局本部】〒530-0003大阪市北区堂島2-3-2 堂北ビル4階 【TEL】06-6345-1517

【東京事務所】〒162-0065新宿区住吉町8-5シンカイビル201号室 【TEL】03-6380-5088



# 特定非営利活動法人 自立生活サポートセンター・もやい

## つながりの中で生きるために

経済的に貧しく人間関係においても孤立している…。人間関係の貧困を象徴する「アパートに入居したくても連帯保証人がいない」という問題は、ホームレス状態からの自立を妨げる大きな要因です。〈もやい〉では、アパート入居に際し連帯保証人を引き受けると共に、共通の課題を抱える当事者同士の交流を通じて、社会的な孤立状態の解消を目指しています。人間関係を新しく紡ぎ、安心して地域社会での生活を築き、「困った時はお互い様」と言えるつながりを作るための活動を行っています。「自立」とは、ひとりで生きることではなく、つながりの中で生きること…それが私たちの活動指針であり、理念です。



### ～活動内容～

#### 入居支援事業

路上・公園・施設・病院など広い意味でのホームレス状態にある方がアパートでの生活を始めるにあたり、賃貸借契約時の連帯保証人や緊急連絡先の引き受けをおこなっています。



#### 生活相談・支援事業

毎週火曜日には事務所で面談による相談に応じています。（面談無料）また、毎週火曜日と金曜日に「もやいホットライン」を開設し、生活に困窮している人々のさまざまな相談に応じています。





## 交流事業 ～居場所づくり～

誰でも気軽に立ち寄れる「寄り場」として交流サロン「サロン・ド・カフェ こもれび」をはじめ、さまざまな居場所を定期的にかけています。

「コーヒー焙煎プロジェクト」では、いろいろな境遇にあるメンバー達で、フェアトレードコーヒー「こもれびコーヒー」の焙煎・販売にも取り組んでいます。丁寧なハンドピックにより厳選された豆の味わいを、是非ご賞味下さい。



## 広報・啓発事業

地方自治体などの公的機関に対し社会的弱者である当事者の立場から提言を行ったり、ニュースレターやウェブサイトなどを通じて情報発信を行います。また、学校や地域での講演・啓発活動も積極的に行っています。



特定非営利活動法人

自立生活サポートセンター・もやい

〈事務所〉〒162-0814 東京都新宿区新小川町7-7 アゼリアビル202号室

【TEL】03-3266-5744（火・金）

【URL】<http://www.moyai.net/>

資金カンパを随時受け付けております。クレジットカードのご利用も可能になりました。詳しくはホームページをご覧ください。

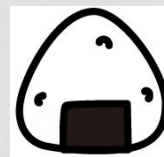
# 社会慈業委員会 ひとさじの会



わたしたちひとさじの会は、2009年4月7日に浄土宗僧侶が設立したお念仏の信仰をもって社会的弱者の支援を行う団体です。浄土宗がかつて「社会事業宗」と呼ばれていたことにちなみ、「慈」の字を入れて正式名称を「社会慈業委員会」とし、法然上人の伝記にある、上人が重湯を路上の病人に一さじずつ口元に運ぶ姿に学び、会の通称を「ひとさじの会」と命名しました。

## ◇活動内容

- ① 生活困窮状態の方の葬送支援、及び追悼法要
- ② 浅草における炊き出し・夜回り配食・医療品の配布
- ③ 定例会(毎月)・勉強会・講演会など
- ④ 寺院による米支援の呼びかけ —災害用備蓄米・古米の活用推進—
- ⑤ 寺院・僧侶による社会的弱者支援のモデルづくり
- ⑥ 東北被災地支援活動 —祈りの道プロジェクト・子ども会・仮設カフェー
- ⑦ プチ修行 —お坊さんと一緒に念仏を称える為先会—



## ◇ボランティアの募集 —心をこめてむすびます—

ひとさじの会では、自分たちでご飯を炊いて、ひとつひとつ丁寧におむすびをつくってお配りし、より多くの人とのご縁を「むすんで」いきたいと考えています。この活動にボランティアとして一緒に活動していただける方、ぜひご連絡ください。よろしく願い申し上げます。



活動日程: 毎月第1、第3月曜日(炊飯15:00～ 配食20:00～22:00)

配食集合: 浅草吾妻橋たもとの交番付近

連絡先: 090-6115-8147 吉水岳彦(代表)

【E-mail】[hitosaji@son.petit.cc](mailto:hitosaji@son.petit.cc) 【URL】<http://hitosaji.jp/>



# 祈りの道 気仙三十三観音霊場 復興プロジェクト

## ◇活動趣旨

気仙三十三観音霊場も、東日本大震災において、9つの霊場が津波の被害を受けました。お堂や管理者の住居が被災したり、観音像が流されたりと被害の程度は様々です。

ひとさじの会では、人々の心のよりどころである観音霊場を再興し、地元の方々に、亡くなった方々の慰霊のため、そして、ご自身の心の安寧を祈るためにお参りを頂きたい、また、全国の方々にお参り頂き、地域の活性化に少しでも寄与したいと考え、「祈りの道 気仙三十三観音再興プロジェクト」を始動させました。現在まで、①霊場マップの発行、②霊場HP作成、③朱印・納経用紙の作成、④講演会の実施、⑤徒歩巡礼道の整備を行って参りました。活動の詳細につきましては、下記のHPをご覧くださいければ幸いです。

## ◇気仙三十三観音霊場とは

観世音菩薩とは、衆生の苦しい悲しいという声を聞き、それぞれの人にあつた姿に変化して、悩み・苦しみを救い、願い事を叶えてくれるという仏さまです。観音霊場の巡拝は、平安時代に始まったと伝えられますが、岩手県の陸前高田市、大船渡市、住田町のいわゆる気仙地域にも、江戸時代半ばの享保三(1718)年、高田村の検断役佐々木三郎左右衛門知則が、父母の追善供養のために選定し、「気仙三十三観音霊場」が開かれました。平安時代、征夷大將軍として東北に派遣された、坂上田村麻呂に関わる伝説を持つ「気仙三観音」や、江戸時代に東北の大富豪として名を馳せた稲子澤家がお祀りしていた百一観音など、様々な物語を抱え持ったたいへん興味深い霊場です。ぜひ、気仙の観音様をお参り頂きたく存じます。



【E-mail】[hitosaji@son.petit.cc](mailto:hitosaji@son.petit.cc) 【祈りの道URL】[kesenkannon.jimdo.com](http://kesenkannon.jimdo.com)

# オリジナル散華(入出証)について

## 製作

社会福祉法人東京都知的障害者育成会  
新宿区立高田馬場福祉作業所  
〒169-0075 新宿区高田馬場4-10-2  
【TEL】03-3367-2939 【FAX】03-3367-2960  
【URL】<http://www.ikuseikai-tky.or.jp/~iku-takadanobaba/index.html>

## デザイン

本秀康(漫画家、イラストレーター、チラシデザイン)  
嶋井猛(イラストレーター、散華デザイン)

本イベントでは、チケット代わりの出入証として、オリジナルの手漉き紙の散華を作成しました。散華とは、仏さまを供養するときに撒く色とりどりの花びらのことです。

作成は、高田馬場福祉作業所（障害福祉サービス事業／就労継続支援B型）に作業委託しました。作業所がもともと作っていた手漉きのハガキを利用して、そこにカラー印刷を施したものを、作業所の利用者の方々にハサミで一枚ずつ丁寧に花びらの形に切り抜いてもらっています。

散華のもとになった手漉きのハガキは、実は使用済みの牛乳パックからできています。作業所の方々が一枚ずつ、いくつもの工程を重ねて、丁寧に作ってくださった一品です。お持ち帰りになった後は、本のしおりなど、さまざまなご用途にお使いいただければ幸いです。



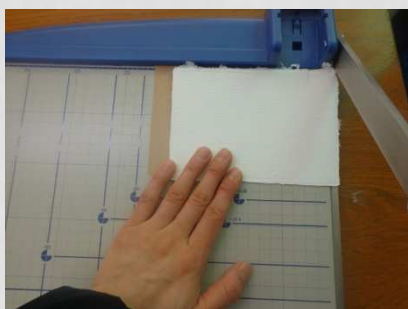
【作業①】牛乳パックから取り出したパルプをミキサーにかける場所



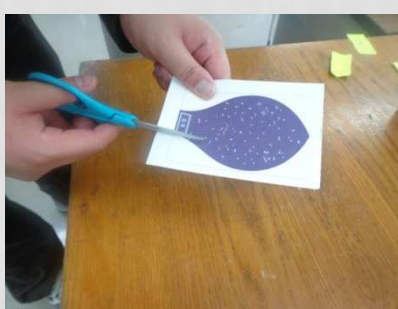
【作業②】パルプから紙を漉いた後に、水分を絞っている場所



【作業③】紙を葉書サイズ大にしたものを窓ガラスに貼っている場所



【作業④】乾いたパルプを葉書サイズになるように切断している場所



【作業⑤】葉書に両面カラー印刷したものを、散華の形にハサミで切っている場所



【作業⑥】切り終えて散華の形になったものをストックしている場所



# りんりんふえすサポーター

## 寄付

梅窓院(東京都港区)  
光照院(東京都台東区)  
法源寺(静岡県富士市)  
龍源寺(東京都港区)  
安養寺(東京都江戸川区)  
栄閑院(東京都港区)  
大蓮寺(神奈川県川崎市)  
長昌寺(大分県杵築市)  
長圓寺(東京都台東区)  
本覚寺(青森県今別町)  
常行院(千葉県松戸市)  
心行寺(東京都府中市)  
心光院(東京都港区)  
正円寺(群馬県沼田市)  
安養寺(長野県長野市)  
西蓮寺(山形県米沢市)

不断院(東京都八王子市)  
雲上寺(宮城県塩竈市)  
浄念寺(埼玉県桶川市)

## 看板・めぐり台の書

大善寺(青森県板柳町)

## 協力

認定NPO法人 ビッグイシュー基金  
有限会社ビッグイシュー日本  
NPO法人自立生活サポートセンター・もやい  
ひとさじの会  
MIDIINC.  
池袋あさやけベーカリー  
べてぶくろ  
高田馬場福祉作業所  
公益財団法人 浄土宗ともいき財団  
浄土宗新聞

# タイムテーブル

## ●一部公演

14:30～ 寺尾紗穂

15:00～ NRQ

15:30～ 七尾旅人

## ●座談会

14:30～ ビッグイシュー座談会

## ●二部公演

18:05～ ソケリッサ

18:35～ 石橋幸

19:05～ 加川良 \* 20:00までに完全終了

### 【THE BIG ISSUE 座談会】

#### ・テーマ

「はたらく」を考える

#### ・パネラー

寺尾紗穂 / シンガーソングライター

稲葉剛 / NPO法人自立生活サポートセンター・もやい代表理事

佐野未来 / 有限会社ビッグイシュー日本 東京事務所マネージャー

#### ・コーディネーター

吉水岳彦 / ひとさじの会代表、大正大学非常勤講師、浄土宗光照院副住職

#### ・ゲスト

前田敏之、ビッグイシュー販売者、他